

## 令和3年度 第2回 福岡市保健福祉審議会総会 議事録

### 日時

令和3年7月6日（火） 14時00分～15時00分

### 場所

TKPガーデンシティPREMIUM天神スカイホール メインホールA

### 出席者

別紙の通り

### 会議次第

- I 開会
- II 委員紹介等
- III 議事
  - ・福岡市保健福祉総合計画の答申案について
- IV 局長挨拶
- V 閉会

### 議事録

#### I 開会

##### 【事務局】

福岡市保健福祉審議会総会の開催にあたり、当会議委員35名のうち、開会時点において、31名が出席し、定足数である過半数に達しているため、福岡市保健福祉審議会条例第6条第3項の規定により、会議は成立することを報告。

また、福岡市情報公開条例に基づき、本審議会は原則公開となる旨を報告。

#### II 委員紹介等

##### 【事務局】

前回の総会以降に新たに就任された委員の紹介及び配布資料について確認。

### Ⅲ 議事

#### 【委員長】

委員の皆様方には、これまで約2年にわたり、各専門分科会を中心として御審議をいただき、御礼申し上げます。

本日は、事務局から3月に行われたパブリックコメント等を受けた意見への対応案を説明してもらい、保健福祉審議会として、最終的に御検討、御意見をいただきながら、市長への答申事項を決定する。

まず最初に、事務局から、答申案について、資料1から資料4まで一括して説明を求める。

#### 【事務局】

資料1～4について説明。

#### 【委員長】

ただいま事務局から一括して説明があったことに対し、御意見を頂戴する。

#### 【委員】

答申案について大きく2点、意見を述べる。

1点目は感染症対策について、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、この計画期間は今年度から2026年までの6年間とされている。コロナ対策はこの計画期間の多くにわたる可能性があり、計画全体を感染症対策を柱にして見直す必要がある。

2点目は基本理念について、2040年のあるべき姿に向けた基本の方針として、支え合う福祉を掲げているが、これは自助、共助が必要になっている。地方自治法第1条では、住民の福祉の増進を図ることを地方自治体の基本的な役割として定めているが、支え合う福祉というやり方は、地方自治体の役割を放棄し、福祉の在り方を変質させるものであり、基本方針から外すべきである。

#### 【事務局】

1点目の感染症については、資料2の中で説明したように、総論の分野、今回の施策の基本の方針、基本的な考え方の中に、新興感染症の発生についてしっかり対応をしていくとい

うことを入れさせていただいている。また、パブリックコメントの中でも基本の感染症対策だけではなく、社会環境の変化も踏まえて経済的な支援等についても踏み込むべきだという御意見をいただいたので、そういった文言も入れさせていただいている。今回の計画の基本的方針、基本的な考え方として入れているので、柱にしているものと考えている。

次に、支え合う福祉は公助の放棄ではないかという御指摘については、今回の計画の大前提として、行政としては、市民のセーフティーネット機能の維持など行政が果たすべき役割というものは当然に果たすものと考えている。その上で、2040年を見据えて、誰もが生き生きと暮らせるために支え合う福祉をということで、行政のベースの部分からプラスアルファの施策として取り組ませていただくので、決して、自助、共助だけを前面に出して、公助を放棄するというものではないと考えている。

#### 【委員】

コロナ対策も踏まえた上で、新興感染症対策も踏まえているということだが、きちんと柱に据えた政策、計画をもっと分かりやすくしていただきたい。

それから、公助に関して、それは大前提だということではあるが、この原案、資料4を見ると、公助の部分が一番最後に書かれているというところで、やはり後回しになっているのではないと思われる。こういった公的責任を明らかにした抜本的な計画の見直しをすることを強く求めておく。

#### 【委員長】

恐らくコロナ対策等については、今からいろんなことが出てくるので、市としてもいろいろ取り扱っていくと同時に、市議会でもいろいろと御審議いただくことになると思う。ただいまの御意見を踏まえた上で、修正するかは、委員長へお任せいただきたい。

それでは、ほかに御意見はあるか。

#### 【委員】

今、委員からの御意見があったが、私は、逆にさらに一層この計画の推進を図ったほうがいいのではないかということからお話します。

まず、感染症によって、例えば地域共生社会などを、対面の場面を増やすことで推進するという方式だけではうまくいかないということがはっきりしたのではないか。逆に、ICT

を使ったようなバーチャルリアリティーの世界に引き寄せることによって、様々なチャンスが生まれているという現実がある。そうしたことに、高齢者や障害者の人たちが本当にそれを使えるようになるかどうかというリテラシーの普及というのが一番重要なことではないかと改めて感じている。

そういう意味で、この感染症が及ぼしているマイナス面だけではなく、それが気づかせてくれた様々なアイデアが全面的に前に進めるように、ぜひ進めていただきたい。

さらに、自助、共助、公助という枠組みに対して、公助を前面に出していくべきという話があったが、それは全く話が違うのではないかと考える。自助というものをいかにして高めるかということについては、やはり本人のリテラシーを高めるということにもっと力を入れて、それに対する支援、サポートを講じるということに力を入れないと、この危機は乗り越えられないと思っている。何でも行政頼みというような姿勢が一番無効なのではないか。

そういう意味で、この保健福祉総合計画の中で述べられていることは、まだ既存の路線の中で展開しているところがあるが、新しい課題、新しいものの芽生え、そういったものを行政としてもしっかりと受け止め、きちんとした調査を踏まえながら、次の施策を講じていくというふうに力を入れていただきたい。

#### 【事務局】

パブリックコメント等でもICTリテラシーを高めるべきだという御意見をいただいております。今回、資料2で少し長く説明させていただいたが、健康、高齢、障害分野それぞれICTの利活用についての文言を足らせていただいている。

また、委員がおっしゃるとおり、このコロナ禍において地域福祉活動にICTを利活用するという動きも広がってきている。

こういった動きをとらえ、時代に遅れないように、感染症のマイナス面だけではなく、ICT活用のプラスの面もあると思うので、きちんと調査をして活用していく。

#### 【委員】

それらのことを進めるに当たって、一つの課題として提示しておきたいのは、個人情報保護という問題と、こうしたICT等の技術革新を活用するところから出てくる様々な新しい課題をいかにしてクリアするかということが非常に大きな課題になっている。

ビッグデータはあるが、それを本当に有効な形で使えるかどうかというのは、今までの個

個人情報保護という観点だけで進めていたが、公共的なICT活用という問題の論議はぜひ市としてもしっかりやっていただきたい。

**【委員長】**

貴重な御指摘のとおりで、この基本計画ができて、これを進める中であって、また徐々に改善されていくべきものと思う。

それでは、ほかに御意見あるか。

**【委員】**

資料4の61ページの③に、福祉におけるアジアのモデルとなる社会ということで、これから恐らく日本を上回ってシンガポールとか韓国でも高齢化が進展するということを踏まえて、アジアのモデルとなる社会となっていると思うが、なぜアジアなのか。

やはり福祉における世界のモデルとなる社会ということで、2040年のあるべき姿として、日本は世界最先端をしっかり目指すべきではないか。

**【事務局】**

アジアとしたのは、アジアの国々は、これから急速に高齢化が進んでいくため、そういった国々のモデルになるということでアジアと書かせていただいたが、福岡市の保健福祉は世界のモデルになるという気概で進めていきたいと思っている。

**【委員長】**

ほかに意見があるか。

**【全委員】**

<なし>

**【委員長】**

ただいま、3点、4点、貴重な御意見もあったので、それについては、事務局と委員長、で協議をして、最終的にそこで決定をさせていただきたい。

【全委員】

<異議なし>

【委員長】

それでは次に、答申の際に鑑とする答申文書について、資料5として配布しているが、この文案で市長に答申を行ってよろしいか。

【全委員】

<異議なし>

【委員長】

市長への答申書の手交式について、事務局からで説明はあるか。

【事務局】

市長への答申書の手交式については、1週間後の7月13日を予定している。福岡市保健福祉審議会からの出席者としては、審議会を代表して石田委員長に出席をお願いしたい。

【委員長】

了解した。それでは、私のほうから責任を持って市長に答申をさせていただく。

以上をもって、本日お諮りする事項については終了したことになるが、福岡市保健福祉総合計画の策定に関する審議は、これで一応の締めくくりとなるので、一言まとめて皆様方に御礼を申し上げます。

福岡市保健福祉総合計画の策定について、令和元年9月3日に市長より諮問を受けて以降、約2年にわたり、分科会を中心として、各専門の委員の方々、当事者代表委員の方々などに終始御熱心に御議論をいただいた。

この計画は、2040年のあるべき姿ということを示しており、その達成に向けた今後の道筋をお示しするものとして、審議を重ねてきた結果、時代を先取りし、内容の充実した非常によいものになったのではないかと考えている。

なお、今後、福岡市においては、この計画に基づいて、着実に新しい時代に適応した制度としていただくよう希望する。

それでは、事務局に進行をお返しする。

**【事務局】**

石田委員長、高田副委員長、岩城副委員長はじめ、委員の皆様には、計画案を御審議いただくため、令和元年9月以降、総会や各専門分科会など多くの会議に御出席いただき、感謝申し上げます。

それでは最後に、保健福祉局長の舟越から挨拶をさせていただきます。

IV 局長挨拶

**【事務局】**

保健福祉局長挨拶。

V 閉会

(別紙) 出席者一覧

(1) 福岡市保健福祉審議会委員(五十音順)

氏 名	役職・専門分野等
石 田 重 森	福岡大学名誉学長(保険論, 年金論, 社会保障論)
磯 部 紀 子	九州大学大学院医学研究院神経内科学教授
伊 藤 豪	福岡大学商学部准教授(保険論, 社会保障論)
岩 城 和 代	弁護士
岩 田 直 仁	西日本新聞社論説委員会委員
大 村 重 成	一般社団法人福岡県精神科病院協会副会長
岡 田 靖	独立行政法人国立病院機構九州医療センター副院長
小 川 全 夫	九州大学名誉教授/特定非営利活動法人アジア・エイジング・ビジネスセンター理事長
小田原 睦子	福岡市民生委員児童委員協議会会長
鬼 塚 恒	弁護士
尾 花 康 広	福岡市議会福祉都市委員会委員
小 山 毅	福岡市自治協議会等7区会長会代表
近 藤 里 美	福岡市議会福祉都市委員会委員
清 水 邦 之	社会福祉法人福岡市身体障害者福祉協会会長
高 田 仁	九州大学大学院経済学研究院産業マネジメント専攻教授
高 野 和 良	九州大学大学院人間環境学研究院人間科学部門共生社会学教授
樗 木 晶 子	福岡歯科大学客員教授
檜 橋 貞 雄	公益社団法人福岡市老人クラブ連合会会長
二 宮 利 治	九州大学大学院医学研究院衛生・公衆衛生学分野教授(腎臓学, 公衆衛生学, 疫学)
納 富 恵 子	福岡教育大学大学院教育学研究科教授(特別支援教育・発達障がい)
野 口 幸 弘	西南学院大学大学院人間科学研究科非常勤講師(特別支援教育, 障がい児・者福祉, 地域福祉)
橋 本 淳	社会福祉法人福岡市社会福祉協議会常務理事
鳩 野 洋 子	九州大学大学院医学研究院保健学部門看護学分野教授(公衆衛生看護学)

花田敏秀	社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会理事長
平井彰	一般社団法人九州経済連合会常務理事 事務局長
藤原繁	一般社団法人福岡市医師会副会長
松尾りつ子	福岡市議会福祉都市委員会委員
南幸盛	福岡市公民館館長会副会長
宮本政智	一般社団法人福岡市精神保健福祉協議会理事
森英鷹	福岡市議会福祉都市委員会委員
矢崎幸子	福岡市七区男女共同参画協議会代表
安元佐和	福岡大学医学部医学教育推進講座主任教授(小児科(小児神経学), 医学教育, 障がい者医療, 特別支援教育, こども虐待)
渡邊恭順	福岡市介護保険事業者協議会会長

## (2) 福岡市職員(組織順)

氏名	役職
舟越伸一	福岡市保健福祉局長
中村卓也	福岡市保健福祉局理事
袈裟丸政憲	福岡市保健福祉局総務企画部長
中村将道	福岡市保健福祉局総務企画部政策推進課長
久田惣介	福岡市保健福祉局総務企画部地域福祉課長
小川明子	福岡市保健福祉局生活福祉部長
鹿野由紀	福岡市保健福祉局生活福祉部保険医療課長
平田成人	福岡市保健福祉局健康医療部長
坂崎久美子	福岡市保健福祉局健康医療部地域医療課長
竹下綾子	福岡市保健福祉局健康医療部保健予防課長
江頭英恵	福岡市保健福祉局健康医療部健康増進課長
坂本明久	福岡市保健福祉局健康医療部医療事業課長
川口貴子	福岡市保健福祉局健康医療部精神保健福祉センター所長
弓削なおみ	福岡市保健福祉局健康医療部精神保健福祉センター副所長
田中雅人	福岡市保健福祉局新型コロナウイルス感染症対策担当部長
林紀子	福岡市保健福祉局高齢社会部長
山下雅孝	福岡市保健福祉局高齢社会部高齢社会政策課長
中蘭泰浩	福岡市保健福祉局高齢社会部地域包括ケア推進課長
青木忠通	福岡市保健福祉局高齢社会部介護保険課長

松本 信一	福岡市保健福祉局高齢社会部高齢福祉課長
笠井 浩一	福岡市保健福祉局高齢社会部認知症支援課長
吉田 崇	福岡市保健福祉局高齢社会部事業者指導課長
高木 三郎	福岡市保健福祉局障がい者部長
西依 正博	福岡市保健福祉局障がい者部障がい企画課長
奥田 一成	福岡市保健福祉局障がい者部障がい者支援課長
渡辺 浩吏	福岡市保健福祉局障がい者部障がい福祉課長
小野 英樹	福岡市保健福祉局生活衛生部長
椿本 聡	福岡市保健福祉局生活衛生部生活衛生課長
宮尾 義浩	福岡市保健福祉局生活衛生部食品安全推進課長